

# 令和4年度 学校評価書

山形県立鶴岡南高等学校

## 達成度

A：目標をはるかに大きく超えている。 B：目標を超えている。 C：目標を概ね超えている。 D：目標を下回っている。 E：目標達成に遠く及ばない。

領域	重点目標	達成度	成果 (○) と課題 (●)	学校関係者評価委員の評価・意見・要望
教務課	新学習指導要領が1年次に導入され、新教育課程の円滑な運用に努める。観点別評価を含む新しい学習評価を滞りなく進める。	C	○1年次で新学習指導要領と新しい学習評価がスタートし、問題なく進んでいる。観点別評価についてはこれからも改善を進めたい。 ○中高一貫校（致道館高校）の開校に向け、教育課程の整備や南北統合のための準備を進めた。 ●令和6年の入試や年間行事など、これから熟考すべき課題が山積している。 ●業務の精選には至らなかった。	・中高一貫を活かしたカリキュラムを構築してください。 ・新高校への移行ご苦労様です。 ・中高一貫校の開校に向けた取り組みと最後の鶴南との両輪となり大変ですがよろしく願います。 ・評定が個人の成績を正しく表せないのであれば、必要性も含めて検討が必要でないか ・さくら連絡網の積極的に利用し、紙での情報発信をやめるなどDX化が必要ではないか CBCCBC（委員の評価）
	学年や教科、部活動と連携して、生徒がメリハリのある生活を送り、家庭学習を充実させる。また、課題の量と質について最適化を図る。	C		
	新課程と旧課程の双方にまたがる授業改善のための校内授業研究と評価方法の研究を進める。	C		
	庄内中高一貫校への移行期は、一貫生が高校を卒業する令和11年度まで続く。毎年のように変更が必要な教育課程や入学者選抜など、中高一貫校の教育理念に沿ったものになるよう定める。	C		
	日々の業務や学期末年度末の業務を確実に滞りなく進めるとともに、新規の業務が増えることから、業務の見直しや精選を検討する。	C		
進路指導課	(A) 早期の進路希望確立を目的として、1、2学年のうちから大学オープンキャンパスへの参加を積極的に勧める。夢ナビライブに1学年生徒全員が参加することで、進路希望の早期確立を促す。	C	(A) ○大学の情報を知る夢ナビライブは、コロナ禍でオンラインでの実施となったが、生徒の進路希望や研究分野を広げるのに役立った。オープンキャンパス等についても情報を提示し、積極的にオンラインで参加した生徒もいた。 (B) 6月実施予定の企業説明会・起業セミナーは中止となったが、鶴南キャリアプログラムの一環として3年生と1年生を対象に（株）Spiberの富樫修氏と菅原寛正氏より講演していただき、国際的に活躍する本校の先輩の	・昨年に比べて苦戦が予想された共通テスト、よがんばったのではないのでしょうか。 ・(A)にオープンキャンパスのことがあるが、年度反省には記載がなかった。 ・今年度も例年並みの受
	(B) キャリア教育の視点に立ち、職業観の育成や将来専攻する学問分野の決定を目的として、社会人や卒業生を招いての講演会を実施する。	C		

進路指導課	(C) 超難関大学・医学部医学科10名以上、難関大学20名以上、国公立大学140名以上の合格達成に向けて取り組む。	C	姿に啓発された。 (C) ○大学入学共通テストの自己採点の結果は、山形県内においては全体で2位、文系で5位、理系は3位、東北33進学校の中では、全体で14位、文系19位、理系15位と健闘した。国公立推薦・総合型選抜では、現在4名(東北大学2名、新潟大学2名、山形大1名)合格している。難関大学以上への進学が難しくなっており、今後の課題である。	験結果を期待してる。 ・難関大学・国立大学への進学を促すため、保護者への進路指導・情報提供を増やすべきでない CBCCCBC (委員の評価)
	(D) SSH 事業、進学指導重点校学力向上推進事業を効果的に進路指導に活用する。	C	(D) ●今年度も、コロナ禍により台湾進路研修が中止となった。 ○ゼミ活動や発表でオンラインを活用するなどして対応することで、SSHの活動を継続することが出来た。進学指導重点校学力向上推進事業を活用した進路関連書籍の充実等、進路指導の一助となった。	
生徒課	日頃からの生徒指導をとおり、“問題行動0、交通事故0、いじめ発生0”を目指す。	C	●大事には至らなかったものの交通事故の件数が6件とまだまだ多く、日常的に注意喚起が必要。	・交通事故件数が少し多い。
	生徒会行事において、全校生徒の8割以上が達成感をもてる内容を目指す。	C	○環境が大きく変わったが、生徒会が中心となって円滑に学校行事が進められた。	・部活動での活躍は素晴らしい。
	ロングホームルーム活動計画に「自他の生命の尊重」「心の豊かさ」等の心の育成につながる内容またはボランティア的な企画を、年間1回以上組み込む。	C	○インターハイ等の全国大会には、アーチェリー部、水泳部、卓球部が出場し、全国高文祭には科学部が出場を果たした。全国には一歩届かなかったものの、陸上個人で県優勝や吹奏楽研究会と音楽部も県で金賞を受賞し東北大会に出場を果たした。	・生徒指導の問題について年度反省にはあるが課題にはない。保護者への対応についても年度反省が資料に記載されるとよかった。
	部活動において全国大会へ団体3種目以上、個人5名以上の出場を目指す。	B		・交通事故についてヘルメット着用の指導もお願いします。 ・宅配弁当等の取り扱いなどで、親の弁当作りの負担を減らすこと出来ないか CBCCCC (委員の評価)
総務課	「PTAの日」をはじめとするPTA独自事業に、より多くの参加が得られるような工夫を行う。また、PTA役員とのより良い連携のあり方を研究する。	C	●コロナの影響により「PTAの日」の開催は行えなかった。	・コロナの影響で参加率を上げるのは難しいことだったと思う。
	防災マニュアルの定着をはかり、より実効性のある危機管理体制の構築を目指す。緊急時における職員間及び生徒・保護者との連絡体制については、業者委託を継続し、未登録者の減少に努める。年2回の防災訓練により生徒教職員の危機管理意識の向上を図る。	C	○PTA独自事業としては、南高祭での水分の提供、研修会を行うことができた。 ●昨年度に引き続き期行えないことが多く、PTA活動の検討が	・新型コロナの影響で

総務課	学校評価のあり方（実施時期、分析方法、活用方法など）を検討し、8割以上の回収率を目指すとともに、校内反省会とのより効果的な連携のあり方を研究する。	C	必要である。 ●学校評価アンケートを生徒、教員分ネットでの方法にしているが回収率が8割弱のため方法について検討する。	コロナ以前の行事が分らないので行事の復活が必要であると思います。 ・新型コロナの影響で地域懇談会が一部地域のみ開催でした。次年度は各地域で保護者に向けた進路指導をお願いします。 CCDCCC (委員の評価)
	年2回の校内倫理委員会を通じて教職員の倫理観・規範意識の涵養をはかる。	C	○校内倫理委員会を2回開催し、倫理観・規範意識の涵養や資質の向上に努めた。	
保健課	新型コロナウイルス感染拡大予防に関する啓発と態勢づくりを徹底する。その他の感染症やアレルギーに対しても適切な対応に努める。	C	○毎朝のさくら連絡網への検温・健康チェック入力、マスク着用・手洗い・消毒など、基本的な感染症対策を徹底して感染予防に努めた。	・適切な対応がなされていると感心する。 ・コロナ対策ご苦労さまでした。 ・新型コロナが第5類となった場合マスク着用しない中でクラスターが発生しやすくなると思います。その対応の検討もお願いします。 ・早期の退学や年度を超えても心の不調が見られる為、よりメンタルケアの充実が必要ではないか CBBBBC (委員の評価)
	自己管理能力の育成を図り、健康管理の充実に努める。学年担任会との連携を強化して、保健室利用ルールを周知徹底する、	C	○保健室利用が昨年に比べ大幅に減っている。適切な利用方法と健康管理について指導することができた。	
	健康診断結果の家庭への連絡と治療勧告を徹底し、疾病の予防及び早期発見・早期治療に努める。学校行事前の健康相談を実施し、円滑な行事運営の一助とする。	C	○心電図検査、貧血検査については、全員精密検査を受診できた。 ○学年との連携のもと、Case会議を随時開催して、心身に問題を抱える生徒の早期支援対策を進め、共有フォルダを通じて全職員に情報共有を行った。	
	学年との連携によりCase会議を適宜開催し、生徒のメンタルケアに努める。スクールカウンセラーをはじめとする各種相談活動を充実させ、支援を必要とする生徒に適切に対応できるよう、精神保健・特別支援教育に関する研究を進める。	C	●感染症対策の一環で個人ゴミの持ち帰りを指導しているが、徹底しきれていない。	
	校舎内外の清掃指導を徹底し、学校環境の美化と整備に努める。危険防止のための施設・設備の安全点検を徹底する。	C	○清掃点検、手指消毒用アルコールの補充確認など、保健委員が定期的に活動を行い環境整備につなげることができた。	
	生徒保健委員の主体的な活動を活発化し、生徒への啓蒙活動の積極化を図る。学校保健委員会を通して学校保健上の課題の検討と解決を図る。	B		
図書情報課	① 鶴南ゼミにおける図書・視聴覚教材・教具の効果的な活用を研究し、環境を整備する。仮設校舎においても図書館機能を支障なく維持する。	C	① ○図書の貸出冊数は、2,532冊で昨年比125冊増（一人当たり4.3冊）。校舎移転があったが、例年通りに利用された。	・現在の高校生がどの程度本を読んでいるのか次回教えてもらいたい。 ・図書や情報端末機器の整備が貸し出し冊数の増加に表れていると思う。
	② 図書館の利用促進及び読書指導の研究を行い、本校の特性にあった運営を図る。	C	② ○ゼミ活動に関わり生徒からの購入希望に、ほぼすべて対応した。	
	③ 読書、図書館利用の習慣化を図るため、「LHR読書の時間」や「コンテストへの応募」などを実施する。	C	③ ○感想文コンクールや各種コンテストに174編応募した。ビブリオバトル山形に1名が参加した。	
	④ 鶴岡南高校の情報セキュリティポリシーの周知と啓蒙を行う。	C	④ ○特に問題なく管理・運営できた。 ⑤ ○学校行事やゼミの発表会等の紹介、広報活動ができた。	

図書情報課	⑤ 学校ホームページの更新をより活発にし、SSHなどの活動を積極的に発信する。	C	⑥ ○校内および校外とかがわる諸行事で有効に活用できた。	・オンライン授業用に、配信機材の充実(カメラ機能の向上等)が必要でないか CBBCC(委員の評価)
	⑥ 各HRに設置のプロジェクターの利用を促すとともに利用法を研究する。生徒および教員のクロムブックの活用を図っていく。	C		
SSH事務局	SSH3期目採択に向けて事業の成果・課題を整理し、関係機関と連携しながら取組を向上させる。	C	○SSH事業の成果・課題を整理し、事務局内、運営企画委員会で情報共有、役割分担をして申請書を作成した。 ○校内の発表会は感染症対策をしながら開催し、他校の生徒と交流することができた。オンラインも含め様々な外部発表会等に挑戦し、活動の充実が見られた。 ○G-workspaceの利用等、ICT関連の設備を利用する機会を充実させることができた。 ●事業の評価については計画の段階で到達目標を設定しておく必要があった。Ⅱ期目5年間を振り返ったときに成果を数値で示すことができなかった。Ⅲ期申請が採択された際には、評価委員会で検討していく必要がある。	・新聞等で様子がわかった。 ・再度の認可について努力していただきたい。 ・鶴南ゼミの発表とても良かったと思いますが発表する生徒の声が聞き取れなかった部分があったのでご指導お願いいたします。 CBCCCC(委員の評価)
	毎週一度のSSH事務局会、月一度のSSH運営企画委員会を開催するとともに、各学年、各課との情報共有を図りながら全職員体制で事業を進めていく。	C		
	鶴南ゼミでは鶴南ゼミマニュアルの活用、合同ゼミの実施およびSSHだより等による指導で更なる内容の充実を図る。また、発表会等を通じた他校との交流も拡大を目指す。	C		
	鶴南ゼミの評価について、研修会等を通じた教職員の共通認識のもと、本校の現状に適したものにしていく。また、各SSH事業についての評価の仕方を整備する。	C		
事務部	校内における事故防止のため、保健課との連携を図る。年8回以上の合同安全点検を実施する。	C	○安全点検を毎月実施し、問題箇所については基本的に速やかに対応して、安全確保に努めた。	・安全点検の実施により安全確保に努めていただきありがとうございます。 ・校内、校舎、体育館、特に問題ない。 CBBCCC(委員の評価)
1年次	様々な環境の変化に対応する姿勢を養うとともに教科の授業やゼミ活動をはじめとする全ての学校活動において主体的な思考、行動ができることを目指す。	C	○制服が変わり、後者の引越越し、教育課程と評価法が変わり、北高との統合への準備と様々な環境の変化の中で落ち着いてしっかりした学校生活を送っている。 ○1学期99.3%、2学期98.8%で概ね健康的な生活を送っている。 ●2学期で評定1の生徒が2名2科目のみ。年度の初めから2名減り、198名となった。長欠者2名、悪質ないじめと見受けられるものはない。 ●年次PTA3回開催。出席率は73.5%,70.0%,50.0%で平均64.4%であった。 ○部活動加入率は96.5%で、それぞれの活動で頑張りが見	・学習に部活にひたむきに取り組んでいる生徒の姿が好ましいです。 ・統合したとき不穏にならないようこれから準備していただきたい。 ・各学年各教科で様々な課題があるようすが成人としての成長よ
	出席率99%以上を目指す。	C		
	単位未修得、長期欠席、いじめ等の問題行動「0」を目指す。	C		
	年次PTAの出席率75%以上を目指す。	C		
	部活動加入率90%以上を目指す。	B		

1 年 次	学習の質（学習方法の確立）と量（授業以外の学習時間3時間）の向上を目指す。	C	られる。 ●進研模試の3教科全国偏差値は、7月は58.8、11月は59.8。下位が少ないのは良いが、上位も少なく上位者の育成が課題。	ろしく願います。 CBCCCC(委員の評価)
	模擬試験における全体平均偏差値60以上を目指す。	C		
2 学 年	心身の健康（特に心の健康）に留意させ、年間出席率99%以上を目指す。	B	○一部欠席の多い生徒はいたが、概ね良好な出席率を維持し、健康的な生活を送ることができた。	・全体として落ち着いた学年の様子がかげえまます。対応に苦慮する生徒もまた苦しんでいるのだと思います。 ・各学年各教科で様々な課題があるようすが成人としての成長よろしく願います。 CBCCCC(委員の評価)
	全員が全ての単位を修得して進級することを目指す。	C	○いじめも認められず、良好な学校生活が送られた。 ●学校の指導方針に従わず、身勝手な言動で迷惑をかけた生徒がいた。周囲にも悪影響があり、指導に苦慮した。	
	具体的な進路目標の設定（将来の社会に貢献できる職業・学部学科・大学・専門分野の研究）と志望理由を明確にさせ、学習のモチベーションを高めさせる。	C	○定期的に大学調べを行いながら、現在の力量と志望校のマッチング意識を持たせることができた。	
	進路志望の実現に向けて、日常の授業・鶴南ゼミ・進路研修等を通じて、探究力（課題設定⇒思考⇒判断⇒表現力）の向上の為に主体的な学習（特に学習の質：方法・徹底度）の向上を目指す。	C	○定期テストの成績は概ね良好で、赤点保持者も最低限の数で収まった。各クラスとも教え合いの雰囲気も醸成されていることが要因と考える。 ○進研模試偏差値（英数国）推移7月59.3 11月60.2	
	模擬試験における各教科の平均偏差値60以上を目指す。	C	1月58.9と、概ね目標通りである。上位層が少しずつ増えているが、下位層も増えている。中位、下位層が奮起するよう支援していきたい。	
	学年PTA出席率70%以上、クラスPTAの出席率50%以上を目指す。	C	●学年PTA（進路講話）等の出席率が約60%程度と多くなかった。3年時にはより連携を深め、進路実現に向け協力関係を構築したい。	
3 学 年	心身の健康（特に心の健康）に留意させ、年間出席率99%以上を目指す。	C	●部活動、学校行事等、多忙な日常生活の中で学習不振・人間関係等の理由により、心身の健康が保てない特定の生徒が2年生から継続している。普段の学習の積み重ね（予復習・課題提出など）が不十分な生徒がいる。2学期末の時点で、97.3%と出席率が目標に届かない。	・推薦入試に向いている人と向いていない人がいます。向いている人は積極的に受けることをすすめてください。 ・高校生活の3年間は丸々コロナの影響を受け校舎に仮校舎に変わるという学年、ありがとうございました。 ・各学年各教科で様々な課題があるようです
	全員が評定平均値を上げられるよう、毎日の授業に懸命に取り組む。	C	●SSHや校内・校外活動を活用し、学校型推薦・総合型選抜へ出願したが、国公立大学・私大ともに苦戦した。出願条件をクリアした生徒の希望重視だったためか、合格の壁は高かった。	
	学校行事、部活動に全力で取り組み、リーダーとしての質を高めさせる。	C	●コロナ禍で1年生のスタートが遅れ、そのまま進度を回復できず英語・数学・国語を3年生まで引きずり、理社科目への学習だったため、生徒も教員側も苦労した。模擬試験でも目標を超えることは難しかった。そ	

3 年 次	SSHで培った個々の能力を、進路実現に積極的かつ有効に活用する。	C	<p>の中でも努力し、個々に成績に表れ始めている生徒もいる。</p> <p>○大学入試途中ではあるが共通テストで県内2位、東北で14位と健闘した。今後、2次試験に向け講習がスタートした、各人の志望校達成に向けて頑張らせる。</p>	<p>が成人としての成長よろしく願います。</p> <p>CCCCCCC(委員の評価)</p>
	質を重視した主体的な学習を促し、第一志望合格75%以上を目指す。	C	<p>○進路指導においては、2年生の時より研修会や講演会をコロナ禍前と同等以上に企画・運営し、進路意識を高めることはできた。</p> <p>○学年PTAでは進路研修について扱ったため、多くの保護者より参加して頂いた。コロナ禍もあり、5回の平均は65.0% (2年生では63.4%) で目標までは至らなかった。(1回:中止、2回:67.6、3回:73.1、第4回:57.1、第5回:62.1) クラスPTA懇親会はコロナ禍のため、実施できなかった。学校の様子の伝え方は課題だった。</p>	
	模擬試験における各教科・科目の平均点偏差値60以上を目指す。	C	<p>○今年度もコロナ禍での活動で、この学年独自の工夫をしながら、最高学年として部活動や学校行事(南高祭:体育祭、定期戦、球技大会など)で、後輩の面倒をよく見、導いてくれた。</p>	
	学年PTA出席率70%以上、クラスPTAの出席率50%以上を目指す。	C		